

学習内容報告書 フォーマット

学校名	千葉県立大原高等学校
授業者	川嶋 光・猪野 尚文・朝川 大・秋羽 教弘・川西 達也・宮内 陽子・川本 倭子

1. 単元計画

実施した活動内容に基づきご記入ください。

1-1. 単元名

イサキ親魚漁獲実習・種苗生産・放流

1-2. 学年

3年次生

1-3. 教科（単元を実施する教科を全てお書きください）

総合実習

1-4. 単元の概要

地域水産業関係者（遊漁船）と本校海洋科学系列は日頃から協力し合っている。今回は、種苗生産に用いるイサキ親魚を地域水産業者（遊漁船チャーター）と協力して釣り上げる。そのイサキを活魚輸送トラックにて実習場まで運搬する。最終的にはこのイサキから種苗生産・中間育成を行い、親魚を漁獲した海域に放流する。

1-5. 単元設定の理由・ねらい

生徒には地域産業の理解や、漁獲の実際を体験させる。また、遺伝的多様性のための親魚の確保についても触れる。栽培漁業の一連の業務を通して、持続可能な水産業の確立に向けた各業種の取組みについて理解し、ひいてはSDG s の取組の当事者として意識させたい。

1-6. 育みたい資質や能力、態度

地域産業の理解と漁獲の体験を通して海の魅力を体験する。種苗生産や中間育成から生き物を育てる大変さや命の尊さ倫理観をはぐくむ。多くの大人達との交流を通じたキャリア学習の面も持たせる。

1-7. 単元の展開（全12時間）

時数	学習活動・主な内容	教師の指導 / 主な評価 外部連携 / 使用教材等
6	<p>地域水産業関係者の船に乗船し、イサキ親魚を漁獲する。</p> <p>漁獲の方法を学び、1人ひとりが実釣する。</p> <p>雌雄判別、活魚輸送を行い種苗生産の準備を行う。</p>	<p>地域水産業関係者（釣り船）の担当者よりイサキ親魚の漁獲方法について船上にてレクチャーを受ける。</p> <p>教師及び同乗した関係者は生徒の補助を行いながら、単元目標の達成に努める。</p>
2	<p>イサキ種苗生産について学び、基礎的な知識を身に付けながら、イサキ種苗を生産する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・採卵と種苗生産 ・初期餌料 ・中間育成 ・飼育魚管理 	<p>栽培漁業実習上での実習として、種苗生産や中間育成について解説する。</p> <p>飼育業務の実際をまなび、実習上での飼育のありかたを体験的に学ばせる。</p>
4	<p>イサキ稚魚放流を行う。漁獲したイサキを親として生産した稚魚を漁獲した海域に放流し、栽培漁業の一連を完結する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・池上げ、出荷作業 ・活魚輸送車への積み込み ・乗船しての放流 	<p>地域水産事業者と連携し、栽培漁業実習上からイサキを出荷し、大型活魚輸送車に積み込ませる。</p> <p>漁船乗船・放流時の安全確保を行う。</p>

2. 学習活動の実際

実施した単元中のキーとなるような時間（導入の時間・主となる活動の時間・まとめの時間など）の学習内容をご記入ください。また、複数の時間についてご記入いただける場合には、この項目をコピーして複数記入していただいて構いません。

2-1. 単元における位置づけ

単元 時間中の 時間目

※例：単元 10 時間中の 2 時間目 / 単元 15 時間中の 4, 5 時間目

2-2. 本時の目標

- ・地域産業「遊漁船」の運行について、体験的に学ぶ。
- ・イサキの漁獲を体験し、そのイサキの特徴について学ぶ。
- ・イサキの雌雄判断について学ぶ。
- ・イサキの活魚輸送を行い、種苗生産用の親魚として活用する準備をする。

2-3. 本時の展開

主な学習活動 / 反応	教師の指導・支援 / 評価の視点（方法）
<p>目標 1：遊漁船の運営について、離岸出港・接客・航行・釣り補助・入港・片付け等について、実際の様子を見ながら学ぶ。</p> <p>目標 2：イサキの漁獲方法（カモシ釣）について船員よりレクチャーを受け、漁獲の実際について学ぶ。沖合にて、一人ひとりが竿を持ち、漁獲に臨む。魚とのやり取りを通して、漁獲の喜び、命のやりとりを学ぶ。</p> <div data-bbox="135 1249 549 1559"> </div> <div data-bbox="563 1249 976 1559"> </div> <div data-bbox="135 1585 549 1895"> </div> <div data-bbox="563 1585 976 1895"> </div>	<p>集合挨拶指導・関係者紹介・今日のねらいの解説。</p> <p>遊漁船担当者による解説 実釣による道具を用いながら、漁獲方法について学ぶ様子を観察・補助する。</p> <p>漁場到着後、船長の指示での漁獲（実釣）開始の後、生徒の補助を行う。 雌雄判別について、釣り座近くの数人グループに、実演しながら解説する。</p> <p>優良個体を大型水槽に搬入する。</p> <p>漁獲後の片付けについて補助し、船内移動時の安全を確保する。</p>

目標 3： 漁獲後の処理として、清海水にて保護し釣りによるダメージをやわらげ、イサキが落ち着いてきたら腹部圧迫による雌雄判断を行う。優良親個体となりそうなものについて、船の大型水槽に搬入し、船上活魚輸送する。



目標 4： 入港後、選別された親個体を丁寧にトラック水槽に移し、実習場まで活魚輸送を行う。

目標 5： 親として使用しない個体について、水産食品として、おいしさを味わう。

入港接岸後、船内片付けとともにトラックでの活魚輸送について準備する（トラック水槽・酸素供給等）

優良個体を漁業者と判別後、バケツにて水ごと輸送し、生徒のバケツリレー方式でトラック水槽に搬入する。

死亡個体・不要個体については生徒に配布し、持ち帰らせる。

3. 今回の活動の自己評価

この単元は、本プログラムの主となる部分である。昨年同様に地域水産業関係者との協働、種苗放流による遺伝子の多様性の保護、種苗生産後の稚魚を放流することによる SDGs の学び等、を含む。ひいては、過疎化の進行が激しい地方集落に、産業や生産性を生み出すことに繋がることになるだろう。地域への貢献度も増してきている。本校生徒にも浸透し、生徒全員が楽しみにしている実習となってきた。

また、今年度は科目「課題研究」でイサキの種苗生産をテーマに取り組んだ生徒もおり、より深くイサキや種苗生産を学ぶことができた。



釣果と集合写真



後日、稚魚放流の様子

4. 今後の課題

昨年からパイオニアスクールプログラムを活用して、本実習を開始した。地域や中学生にも浸透し、海洋科学系列を代表する実習となってきた。

今後も、地域関係団体等と協力体制を継続し、発展させていきたい。

5. 本学習内容報告書活用にあたっての留意点

特になし

※実施した单元ごとに作成してください。

※写真、画像、図表等の使用可。必要に応じて記入欄やページ数を増やしても構いません。

※基本レイアウト

フォント：MS 明朝、10.5 ポイント / マージン：上下端 20mm、左右端 16mm

※ファイル名は「学習内容報告書_学校名」とし、複数提出する場合は学校名の後に数字を記載してください。

例：学習内容報告書_海洋市立パイオニア小学校 1

※年間指導計画（年間の指導計画における単元の位置づけが分かる資料）があれば別添資料として提出してください。フォーマットの指定はありません。